

肯定的・対話的な関わりを大切にした教育活動の展開  
～キャリア教育の視点を生かした学級経営と学年経営～

棚倉町立棚倉小学校  
教諭 藤田 由紀

## 1 はじめに

本校では、「なりたい自分になるために学び続ける児童の育成 ～肯定的・対話的な関わりによる教育課程の実践を通して～」を研究テーマとして、キャリア教育の視点を生かした授業づくり、学級づくりに取り組んでいる。5学年経営においても、子どもたちが、「今、学んでいることは、自分にとって必要な学びだ。自分の将来に役立つ大事な学びだ。」と実感し、なりたい自分に近づくために学び続けることができるようにしていきたいという思いで実践を積み重ねてきた。その際、子どもたちが学びをつなぎ、前向きに学び続けるために、肯定的・対話的な関わりを大切にしながら教育活動に取り組んだ。

## 2 実践の内容・方法

### (1) 四半期制による資質・能力の育成

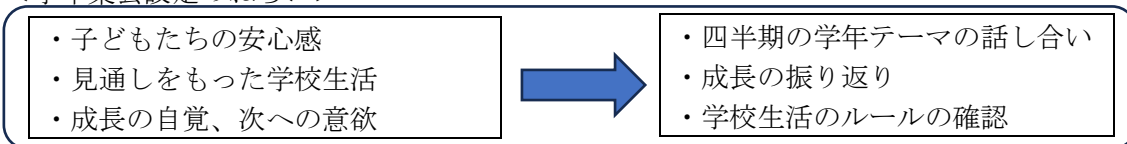
本校では、一年間を4つに分けた四半期制で教育活動を行っており、各学年が四半期という3か月スパンで、子どもたちに育てたい資質・能力を焦点化し、目指す姿や学年テーマを設定している。それらをもとに、子どもたち一人一人がなりたい自分につながる目標を意思決定している。そのため、学年テーマは、子どもたちの考えや思いを大切に設定している。第5学年では、「All in 1」をベースとして、以下のように設定し、年間を通して子どもたちの資質・能力を育成した。

四半期	育てたい資質・能力	目指す姿	学年テーマ
第1 四半期	人間関係形成・ 社会形成能力	一人一人のよさを認め合い、他者と折り合いをつけながら協力・協働することができる	学びをつなげ All in 1
第2 四半期	課題対応能力	失敗してもめげずに、何度でも意欲をもって取り組み、最後までやり遂げることができる	学びを生かせ All in 1
第3 四半期	自己理解・ 自己管理能力	よりよい自分になるために主体的に考え実行することができる	学びを深めろ All in 1
第4 四半期	キャリア プランニング能力	最高学年に向けて、自分の役割を、責任をもって果たすことができる	最高学年へ学びをつなげ All in 1

### (2) 資質・能力を意図的・計画的に育むための学年経営

焦点化した資質・能力を意図的・計画的に育成するために、学年担任団による打合せや5学年全児童との学年集会を定期的に設定し、共通理解、共通実践を目指した。また、教育活動の見通しと振り返りを重視した学級経営と学年経営を心がけた。加えて、計画以外にも必要に応じて、タイミングを逃さずに打合せや学年集会を行った。

<学年集会設定のねらい>



実行 実現



- 学年の担任と子どもたちの信頼関係構築
- 学年全体の関わりが増え、人間関係が広がる
- 学年全体で共通理解、指導の徹底
- 学年全体に「肯定的・対話的な関わり」が広がる
- 学年全体で「つながる学び」の意識化



**子どもたちも担任たちも「All in 1」を目指す姿に！ 学年団としての高まり**

<学年集会における四半期学年テーマ設定の話合い>

学年集会において、四半期ごとに子どもたちと学年テーマを話し合ってきた。以下は、第1四半期の学年テーマの話合いの一部である。第1四半期は、「高学年の仲間入り」「クラス替え」等、子どもたちが気持ちを新たにスタートできる大事な四半期であるため、学年テーマを設定する意義等についても丁寧に話し合った。

年間を通して、子どもたちと「覚え、意識し、行動できる」シンプルで明確な言葉を考え、学年テーマを設定した。

T： 今日の学年集会は、第1四半期の学年テーマについて話し合います。第1四半期は、「一人一人のよさを認め合い、他者と折り合いをつけながら協力・協働できる姿」を目指していますね。この姿をいつも意識して生活できるようにするために、どんな学年テーマにしたらよいでしょうか。

C1： 今まで学んだことを生かす。

C2： ワンチームになって、みんなで伸びるはどうか。

C3： ステップアップもいいと思う。今までよりも上を目指した方がいいから。

C4： 教育目標に「つなげ学びを」があるから、学びをつなげるがいい。・・・

(3) 教育活動全体を通して資質・能力を育む

学年で設定した資質・能力を育むために、四半期ごとに教科等横断的な視点で単元や領域等を位置付けた。それをキャリア教育関連表(図1)として作成し、教育活動全体を通して資質・能力を育むことに取り組んだ。子どもたち一人一人に資質・能力が身に付くよう、なりたい自分に近づけるよう肯定的・対話的に関わりながら、成長を促した。さらに、四半期の終わりには、学級活動(3)において、なりたい自分の振り返りと次の四半期の目標設定を行った。

第5学年 第4四半期		キャリアプランニング能力		
目指す姿	最高学年に向けて 自分の役割を責任をもって果たす			
学年テーマ	最高学年へ学びをつなげ All in 1			
月	1	2	3	
進め方	異学年交流	学年内連携活動	卒業後進路への準備	
学級	・活動及び「つなげ学び」の振り返り ・学年集会でのルール確認			
教科	国語科 「大志しめいさんどカン」	算数科 「野郎で読みこころ」		
特別活動		学級活動 「約束」作成活動 「つなげ学び」の振り返り	学級活動 「第4四半期の振り返り」作成活動	
総合	新卒での進路 「エ・サービス」 「ふたば」 「ふたば」 「ふたば」	卒業後の進路 「エ・サービス」 「ふたば」 「ふたば」 「ふたば」		
道徳科		「ふたば」 「ふたば」 「ふたば」	「ふたば」 「ふたば」 「ふたば」	

図1 第4四半期キャリア教育関連表

#### (4) 学級活動(3)「第○四半期の振り返りと目標設定」の授業の工夫

子どもたちの成長やがんばりを四半期末に振り返り、次の四半期への意欲をもつことができるよう、学級活動(3)の授業を学年で共通実践してきた。以下は、授業の際に、大事にしている視点である。

##### ① 個と集団へのアプローチ

振り返りにおいて、子どもたちの資質・能力を育成するために、個々の学びの姿を価値付けて、それをつなぎ合わせ、資質・能力が身に付いた姿として実感させ、それを自分の言葉として表現できるように心がけた。みんなで一つの目標に向かって、一人一人が主役、誰一人取り残さない」という思いを大事にした。

T： 第1四半期のめあては何でしたか。  
C： 学びをつなげ、オールインワンです。  
T： 第2四半期のめあては何でしたか。  
C： 学びを生かせ、オールインワンです。  
～子どもたちが資質・能力を発揮している姿を、ICTを活用して振り返る～  
T： こんなに力がつけられたということは、できる人だけ活躍したのではなく・・・  
C： オールインワン！  
T： そうです。オールインワンの気持ちで、みんながやってきたことだね。

##### ② 目標を達成できた根拠の追究

振り返りにおいて、「誰が何を身に付けたか」ではなく、「みんなが身に付けた力は何か」という話し合いをした。子どもたちは、行事を通して「責任感」「協力」「努力」「練習の力」「あきらめない」「集中力」「周りを見る」「仲よく」「楽しく」「人間関係」「体力」「助け合い」「行動力」等を挙げた。10名への意図的指名を通して、「なりたい自分になれた」のは、「どうしてか」を個人に語らせた。子どもたちは「目標に向かって全員で」「一日一日目標を意識して」「普段の生活を大切に」「目標達成を心がける」等を挙げた。身に付けた力の内容よりも、どうやって身に付けたかを重視している。

T： 60人中59人がなりたい自分になれた理由として、どうやってなれたと思いますか？

##### ③ 肯定的・対話的な関わりを大切にした目標設定

目標設定において、子どもたち一人一人が次の成長に向けて、前向きに目標を設定できるよう肯定的・対話的に関わることを心がけている。そのため、事前に、全ての子どもたちのキャリア・パスポートに目を通して、その子が、どんな目標を立て、どのように実践し、成長してきたかを把握し、児童理解を深めた上で、目標設定を促している。

T： Cさんは、自学さ、すごくがんばってるね。常に、目標をもってるじゃないですか。テストになったときに、「がんばろう」とか「何点取りたいんだ」とか、内容も「こうしたいんだな」って伝わります。  
T： Kさんは最近、忘れ物がなくなってきたよね。先を考えて行動することを意識しているよね。そのことは、第2四半期までの学びなんだけど、それを意識し続けるなら同じ目標でもいいです。

#### ④ 全員参加の目標宣言

意思決定した目標を記述したキャリア・パスポートをもとに、全員に目標を発表させている。子どもたち一人一人を認めたいという思いで、子どもが発表した目標を復唱するようにしている。今後、復唱には、「あなたらしいね。」「さらによいところを伸ばそうね。」等、個に応じたコメントをようにしていきたい。

T： では、決めた目標を伝え合いましょう。手のあげ方が上手になってきたC1さん。  
 C1： はい、勉強が難しくなっても最後まであきらめない。  
 T： あきらめない。はい、いいでしょう。  
 C2： 生活で相手のことを知るために、相手の気持ちを考える。  
 T： はい。相手の気持ち。いいでしょう。  
 C3： 意見をしっかり持つために、話を聞く。  
 C4： 一日5回以上発表するために、先生の話をよく聞く。  
 T： はい、よく聞く。いいでしょう。



右は、第2四半期の目標を決め、達成に向けて、これまでの学びをつなぎ努力した児童のキャリア・パスポート

### 3 子どもの学びの姿と今後に向けて

令和5年度QU結果を比較すると、11月調査では満足群が33ポイント増加するとともに、非承認群と不満足群が0名であった。このことから、学年全体で、教師も児童同士も肯定的・対話的に関わってきたことや学級の垣根を越えて子どもたちのよさを見取り価値付けたことが学校への満足感を高めることにつながったと考える。

項目	5月	11月
満足群	63%	96%
侵害行為認知群	8%	4%
非承認群	17%	0%
不満足群	13%	0%

令和5年度 QU結果

令和5年度町キャリア教育意識調査の結果を比較すると、わずかな減少が見られたものの

課題対応能力に関しては、9ポイント増加した。中でも、課題対応能力に関する項目の「知りたいことがあった時、自分で調べたり、人に聞いたりしている」「勉強する

基礎的・汎用的能力	5月	11月	増減
人間関係形成・社会形成能力	90%	93%	+3%
自己理解・自己管理能力	96%	95%	-1%
課題対応能力	89%	98%	+9%
キャリアプランニング能力	97%	96%	-1%

令和5年度 町キャリア教育意識調査

とき、自分で計画立てている」「何事にも、自分で考え、自分から取り組むことが大切だと思う」等において、肯定的に回答した子どもの割合が高まった。このことから、子どもたち一人一人のなりたい自分に肯定的・対話的に関わったことを通して、学びの意義や価値に気付き、自分で考え決めて学ぶことができるようになったことが伺える。

今後も、目の前の子どもたちに育てたい力を明確にして、子どもたち一人一人が前向きに学び続けることができるよう、学年みんなで共通理解を深めながら大切に育てていきたい。